

わが子への愛は十分に伝わっていますか。心にわきあがる感情を、どのようにして表現すれば、子どもに理解してもらえるのでしょうか。

著者であるゲリー・チャップマンは、この本を出す前に夫婦間での愛の表現方法をアドバイスする『愛を伝える5つの方法』を書いていますが、その本を使った夫婦セミナーの参加者から子どもへ対する愛の表現法を聞かれ、本書を書こうと決意したそうです。

共著者のロス・キャンベルは精神科医であり、彼からアドバイスを受けて書かれたこの本には、子どもが分かる形で愛を表す方法や、具体的なアドバイスが詰まっています。

タイトルにあるように、本書には5つの方法が書かれています。子どもを抱きしめる、一緒に買い物へ行くなど、どれも私たちがすぐに実行できるものです。もちろん著者がアメリカ人ということもあって、書いてある通りに行動するのは気恥ずかしいところもありますが、親たちが恥ずかしがってはいいつまでもその愛が子どもたちへ伝わりません。さらに、5つのうちどの方法が

一番子どもに愛が伝わるかを見極めるための質問も載っており、自分の子どもが好む愛の伝え方を見つけたことができます。こうすることによって、効果的に愛情表現することが可能になります。

近年まで、日本ではことばやスキンシップでわが子に愛を伝えることがあまり一般的ではなかったように思います。ほめて伸ばす方針の家庭もあったとは思いますが、多くの人は自分の親からほめてもらったり、励ましてもらったりしていないのではないのでしょうか。厳しく、「もつとがんばって上を目指しなさい」と言われた記憶はあっても、やさしく「よくやったね、えらいね」と言ってもらった記憶がないという方もいるでしょう。

スキンシップも大きくなると次第になくなり、私自身も最後に父と手を握ったのは10年以上も前のことになりました。

残念ながら、自分が最も愛を感じる方法で愛を示されないと、子どもは親に愛されていないと思ってしまうそうです。親からあまり愛された記憶がない人は、自分の望むような愛の表現を親から

してもらえなかったからではないかと思えます。彼らの多くは、一生懸命働いて、私たちに住む家や高等教育を与えることで、その愛を示していたのではないのでしょうか。自分が親になり子育ての大変さを体験して初めて、親がどれだけ自分を愛してくれているのか気がついたという人もいるかもしれません。

もし、愛されずに育ったという思いをもって子育てをしているのなら、自分の子どもにはそのような悲しい思いをさせないでほしいと願います。この本を読んで学ぶことで、きつとより良い親子関係が築けるでしょう。

愛とは心にある感情ですが、それはことばや行動に表さなくては伝わりにくいものです。自分の子どもにびつたりの方法で、たっぷりとその愛を伝えていくことが大切だと思います。

本書は親に向けて書かれたものですが、独身者にもお勧めです。私自身も独身ですが、いつか子どもを持つ日の備えとして、そして何よ

りも今教会にきている子どもたちへ、神さまの愛を伝えるために役立っています。

神さまの愛は、ただ聖書の話を読み聞かせているだけでは伝わりません。「神さまは世界中の人を愛しているんだよ」と言いつつも、大人が子どもの話すら聞かなければどうなるでしょうか。イエスマは子どもに手を置いて祝福しました。大人に手をつないでもらえなければ、子どもはどうやって神さまの温かさに触れられるでしょうか。

キリストの手足となつて働く信仰の先輩として、よりよい形で神さまの愛を伝えるために、本書がよい手引きとなっています。



「子どもに愛が伝わる5つの方法」

著者 ゲリー・チャップマン
 訳：中村佐知 いのちのことば社
 320ページ 定価1,470円(税込み)
 *FFJでは、お取り扱いしておりません。